

一般社団法人日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 36 回 リサイクル燃料貯蔵分科会 (F4SC) 議事録

1. 日時 2016 年 8 月 3 日 (水) 13 : 30～15 : 10
2. 場所 原燃輸送株式会社 大会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 木倉 (主査), 浅見 (副主査), 白井 (幹事), 亘, 山根, 松本 (務), 松岡,
大岩, 入江, 影山 (10 名)
(代理出席委員) 堂守 (清水代理), 檜崎 (佐伯代理), 松本 (光) (長田代理),
中林 (洋) (水谷代理) (4 名)
(欠席委員) 澤, 小佐古 (2 名)
(常時参加者) 吉村, 石川, 樋口, 下条, 広瀬, 菱田, 野島 (7 名)
(欠席常時参加者) 堂守, 本田, 蓬田, 大野 (4 名)
(常時参加者候補) 工藤 (1 名)
4. 配付資料
F4SC36-1-1 人事について (リサイクル燃料貯蔵分科会)
F4SC36-1-2 人事について (専門部会報告)
F4SC36-2 第 35 回リサイクル燃料貯蔵分科会議事録 (案)
F4SC36-3-1 標準委員会の活動状況
F4SC36-3-2 原子燃料サイクル専門部会活動状況
F4SC36-4-1 リサイクル燃料貯蔵分科会 作業会 1 の人事について
F4SC36-4-2 リサイクル燃料貯蔵分科会作業会 1 の検討状況報告
F4SC36-5 リサイクル燃料貯蔵分科会作業会 3 の活動状況報告

参考資料

F4SC36-参考 1 標準委員会 専門部会運営通則他

5. 議事

幹事より、開始時の出席者の確認が行われ、決議に必要な委員総数の 2 / 3 以上の委員数を満足している旨の報告があった。

(1) 人事について

- 幹事より、常時参加者登録の解除報告及び新たな常時参加者の登録の承認について、F4SC36-1-1 に基づき説明がなされ、審議の結果、原案どおり承認された。

- なお、常時参加者の中林氏については、日本機械学会との連携のため、以前本分科会常時参加者の登録を解除したものの、今回再度登録することを、幹事より補足説明された。
- 幹事より、5/26の標準委員会での原子燃料サイクル専門部会に関する人事の報告状況について、F4SC36-1-2に基づき報告された。

(2) 前回議事録確認

- 前回議事録（案）として F4SC36-2 の確認が行われ、承認された。

(3) 標準委員会、専門部会の活動状況について

- 幹事より、標準委員会及び原子燃料サイクル専門部会での本分科会に関連する事項の報告状況について、F4SC36-3-1, F4SC36-3-2に基づき報告が行われた。

(4) 標準改定に係る作業会1の検討状況

- 松本（務）委員より、作業会1の人事（副主査の退任、委員の選任、副主査の指名）について F4SC36-4-1に基づき説明がなされ、委員の選任について審議の結果、原案通り承認された。
- 幹事より、日本機械学会との連携のため、作業会1の常時参加者として1名追加する方向であるとの補足がなされた。
- 松本（務）委員より、作業会1の作業状況について、F4SC36-4-2に基づき報告が行われ、アンケート結果に基づく改定検討プロセス（今回改定と中長期的改定の区分検討等）を確認するとともに、アンケートに対する改定対応案を9月末までにまとめ、次回分科会で提案する予定であるとの報告がなされた。
- また、作業会1のメンバー増強について、9月までに増強が必要とされる要員がどういう形で関わるのか、作業会1で検討を進めるとの報告があった。
- 亘委員より、ASMEにおいて、貯蔵施設の検査に係るワーキンググループが立ち上がったとの情報提供がなされた。
- 日本機械学会との棲み分けについては、幹事及び実務者レベルで調整の上、同学会の三役間と合意を得て進めていく、との幹事からの提案があり、了承された。
- 議論における主なコメントは以下の通り。
 - ・ 学会で検討中の用語集を反映すること。
 - ・ 中長期的改定項目の整理とされている、金属ガスケットの LMP 定数 C の件については、最近の安全審査では標準と異なる値を用いていることから、今回改定に含めることを検討してほしい。
 - ・ 輸送キャスク標準（AESJ-SC-F006）、輸送キャスク定期検査標準（AESJ-SC-F001）との棲み分けについて、輸送容器分科会は実態として動いていないのでは

ないか。

→輸送容器分科会の対応者を確認の上、調整していきたい。

- ・ 表 1 の備考欄に記載の「今後適宜検討」はいつまでに決めるのか。

→作業会 1 の中で情報を得た時点で今回改定に入れるかどうかを検討する。

- ・ 9 月末で今回検討する項目を決めてしまうのか。

→9 月までには決めて、それ以降は具体的な改定内容の検討を進めるが、状況に応じ改定項目の追加も検討する。

- ・ 経年変化として想定する評価期間は、本標準では 50～60 年を考えているのか。

→現状はこのスパンと考えている。さらなる長期貯蔵の評価については、必要があれば中長期的な検討項目として整理されるものと理解。

(5) 作業会 3 の活動状況について

- 大岩委員より F4SC36-5 に基づき作業会 3 の活動状況について報告がなされた。
- まずは作業会 3 の委員を決定し、時間をかけて調整項目を整理（ブレインストーミング）してから、機械学会側との線引きの調整を行う段取りが確認された。

(6) その他

- 次回分科会予定

2016 年 10 月 7 日（金）13:00～ （於：日本原子力発電(株)）

以上